

原子炉実験所だより

目次

1. 京都大学原子炉実験所一般公開について	1
2. 将来計画短期研究会の開催について	2
3. 京都大学原子炉実験所平成8年度 「将来計画」短期研究会プログラム	3
4. 原子炉利用研究者グループ総会の開催について	4
5. 原子炉実験所に係る外部評価について（所長 前田 豊）	4
6. 着任のご挨拶（大久保 嘉高）	5
7. 教官の募集について	7
8. 平成9年度京都大学原子炉実験所COE研究員の募集について	8
9. 京都大学原子炉実験所運営委員会委員名簿	10
10. 招へい外国人学者の受入れについて	11
11. 電話番号の変更について	11
12. 職員の異動	12
13. 委員会メモ（平成8年8月～平成8年10月）	13
別表 京都大学（熊取地区）原子炉実験所電話番号簿	14
編集後記	18

1. 京都大学原子炉実験所一般公開について

京都大学原子炉実験所では、来年（平成9年）4月、下記のとおり一般公開を実施します。多数のご来訪をお待ちいたします。また関心をお持ちの方々へ周知下さるようお願いいたします。

記

日 時：平成9年4月5日(土) 午後1時～4時

場 所：大阪府泉南郡熊取町野田 京都大学原子炉実験所

行 事：・施設見学

臨界集合体棟、原子炉棟（炉室、ホットラボ）、廃棄物処理棟

・ビデオ上映、展示版掲示

原子炉実験所における研究活動の紹介

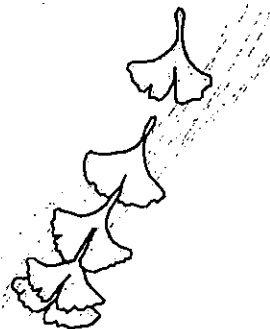
申込方法・団体（10名以上）：団体名、責任者名、連絡先及び電話番号を記載した申込書（書式任意）に見学者名簿を添えてお申し込み下さい。（郵送又はFAX）

・個人：当日守衛棟前で受付けます。所定の用紙に氏名等をご記入下さい。（受付は、午後3時30分までです。）

申込・問合せ先：〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田
京都大学原子炉実験所 総務課庶務掛

☎ 0724-51-2310

FAX 0724-51-2600



2. 将来計画短期研究会の開催について

原子炉実験所の将来計画に関する研究会を下記により開催しますので、ご参加下さるようご案内いたします。

記

日 時：平成9年1月23日(木) 午後1時～24日(金) 正午

場 所：京都大学原子炉実験所 事務棟会議室

趣 旨：実験所の将来計画に関する討論

申込方法等：1) ハガキ、FAX、電子メールまたは電話によりお申込み下さい。

2) 申込み先 〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所 共同利用掛

☎ 0724-51-2312

FAX 0724-51-2600

E-mail : kyodo@rri. kyoto-u.ac.jp

3) 申込期限 平成9年1月10日(金) 必着のこと。

4) 記載事項 下記のとおり

記

将来計画短期研究会参加申込書

1. 氏名

2. 所属・職名

3. 宿泊及び食事の希望（あれば○、なければ×）

	1月22日(木)	1月23日(木)	1月24日(金)
昼 食	_____		_____
宿 泊			

3. 京都大学原子炉実験所 平成8年度「将来計画」短期研究会 プログラム

日 時：平成9年1月23日(木)・24日(金)
場 所：原子炉実験所 事務棟会議室

1月23日(木)

- | | | |
|-------------|---------------|-----------------|
| 13:30-13:40 | 開会挨拶・経過報告 | 前田 豊 所長 |
| 13:40-15:20 | 特徴的研究の進捗状況・計画 | (座長：前田 豊 所長) |
| | 超冷・極冷中性子関係 | 宇津呂雄彦 |
| | 制御照射関係 | 義家 敏正 |
| | 短寿命R I 関係 | 川瀬 洋一 |
| | 超ウラン関係 | 代谷 誠治・森山 裕丈 |
| | 粒子線高度医療関係 | 内海 博司・小野 公二 |
| 15:20-15:30 | 休憩 | |
| 15:30-17:20 | 実験所の整備計画・将来計画 | (座長：宮崎 慶次(阪大工)) |
| | 整備計画の進捗状況 | 財政委員会 |
| | 将来計画小委員会の活動 | 将来計画小委員会 |
| | 将来計画の概要その1 | 同 上 |
| | 将来計画の概要その2 | 同 上 |
| | コメント等 | |
| 17:30-19:00 | 懇親会 | |

1月24日(金)

- | | | |
|-------------|-----------|-----------------|
| 9:30-11:00 | 関連将来計画 | (座長：井上 信(京大化研)) |
| | 全国の動向 | |
| | 関西地区の将来計画 | |
| 11:00-11:15 | 休憩 | |
| 11:15-12:00 | 総合討論・コメント | (座長：将来計画小委員会) |
| 12:00-12:10 | 総括・閉会挨拶 | 前田 豊 所長 |



4. 原子炉利用研究者グループ総会の開催について

下記のとおり原子炉利用研究者グループ総会を開催いたしますので、ご参集下さるようお願いいたします。

日 時：平成9年1月23日(木) 12時～13時

場 所：京都大学原子炉実験所 事務棟会議室

議 題：(1) 平成8年事業報告

(2) 平成8年会計報告

(3) 平成9年の活動方針について

(4) 平成9年の予算について

(5) グループ代表委員の選任について

(6) その他

なお、昼食準備の都合上、ご出席の方は将来計画短期研究会への参加申込み時に昼食の要否をお知らせ下さい。

会員各位からの要望については、あらかじめ事務局（共同利用掛）あて文書でお知らせ下されば、前日開催予定の幹事会で検討し、実現の見込みのあるものについて総会に諮りたいと思います。（総会の席上でご提案下さっても結構です。）

5. 原子炉実験所に係る外部評価について

所長 前田 豊

我が国におけるCOE機関として位置付けられた本実験所は、当該分野において世界に伍する水準を維持し、牽引的役割を常に果たしていくために、自己点検は言うまでもなく、第三者による外部評価が求められています。

本実験所としては、改組後日も浅く、第三者評価を受けるには時期尚早の感は拭えませんが、COE機関に課せられた責務でもあり、

また、評価を受けるための予算も認められましたので、平成8年度にその第1回目として、研究・教育活動、共同利用及び国際交流について国内外の有識者による評価を受けることになりました。

本実験所においては、自己点検・評価委員会委員を中心メンバーとして、研究評価実行委員会を設け外部評価を受けるための準備に

当たるとともに、18名（国内14名、国外4名）の先生方を外部評価委員として委嘱し、平成8年11月25日に第1回目の外部評価委員会を開催しました。同委員会においては、所内教官から実験所の組織・運営及び研究活動等について資料に基づき説明が行われ、これに基

づいて現在外部評価委員の先生方に評価を仰いでいるところであります。

なお、平成9年2月末には外部評価の報告書がとりまとめられ、3月には所長に報告されることとなっております。



6. 着任のご挨拶

大久保 嘉 高

10月1日付けで着任しました。所属は応用原子核科学研究部門の原子核物性です。研究は主に同じ部門で核放射線計測の川瀬教授のグループといっしょに行う予定です。

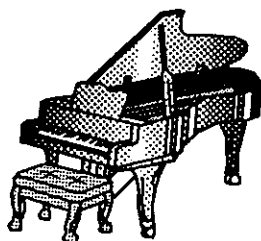
生まれは和歌山県日高郡南部川村で大阪大学理学部化学科を卒業し、同大学の大学院をすぐ中退するまで概ね大阪市内で育ちました。その後、米国インディアナ州のパデュー大学で院生として、ニューメキシコ州のロスアラモス研究所で博士研究員としてパイ中間子による核反応の反応機構の研究を行い、埼玉県にある理化学研究所では研究員として γ 線摂動角相関という核物理の手法を用いた物性・化学の研究などを行いました。あまり馴染みがないと思いますので、あとで簡単に γ 線摂動角相関の紹介をします。さて、このたび原子炉実験所にポストを得ることができ、

ほぼ20年ぶりに大阪市内に住むことができるようになりました。原子炉実験所が実家と住まいの中間に位置するというのは私にとって随分都合よくできています。また、実兄が熊取町に住んでいるというおまけつきです。まだ最初の給料をいただいておりますので、所得がどれほど下がるのかわかりませんが、幸運であると思います。もちろん地理的条件だけで原子炉実験所に職を求めたわけではありません。ここ数年、共同利用研究で γ 線摂動角相関の測定を行ってきましたが、理研でより原子炉実験所での研究がメインになってきたからです。それは主に γ 線摂動角相関で用いる放射線核種を製造するのに原子炉の方が加速器よりマシンタイムを得やすく、物性・化学の実験に適しているということによります。

γ 線摂動角相関の説明をします。励起された1個の原子核が2本の γ 線を続けて放出する時、2本めの γ 線の放出されやすさが1本めの γ 線の放出方向にたいする角度に依存するという現象があります。それを γ 線角相関といいます。もし原子核がそれが存在する物質中の電子に起因する磁場、電場勾配などの摂動を受けると、1本めの γ 線を放出した後の原子核が自転運動をする場合、その方向がふらつき、角相関が時間的に変化します。これが γ 線摂動角相関です。逆に角相関の時間変化を観測することにより、磁場、電場勾配などを測定することによって、原子核のまわりの電子状態・局所的構造についての情報が得られ、物性・化学の研究に適用できます。ただし、1本めの γ 線を放出した後の原子核の寿命はある程度長いものではなければならないなどの条件があります。

共同利用研究としてこれまで行ってきた摂動角相関の実験は継続する予定ですが、さらに原子炉実験所の核分裂片用オンライン同位体分離装置を用いた実験を検討中です。 ^{140}La の親のさらに親核である ^{140}Cs を物理的に試料に打ち込み、他方、中性子照射して製造した ^{140}La を化学的に同種の試料に導入し、両方の試料について ^{140}La が壊変して生成する ^{140}Ce の摂動角相関を測定し、その結果を比較することにより、 ^{140}Cs 、その娘核種の ^{140}Ba 、さらにその娘核種の ^{140}La が試料に熱を加えることなどにより、試料中どのようにふるまうかを調べるといふものです。

まだ人生は長いので摂動角相関の実験にこだわらず、いろいろチャレンジをしたいという気持ちです。人手の足りない時は気軽にお誘いください。よろしくお願いします。



7. 教官の募集について

原子炉実験所では下記のとおり、教官の募集を行っております。詳しくは原子炉実験所総務課庶務掛気付人事選考委員会（TEL. 0724-51-2310）まで照会下さい。

なお、募集締切りは平成9年1月17日(金)午後5時(必着)となっております。

記

京都大学原子炉実験所は、原子炉による実験及びこれに関連する研究を行うことを目的として設置された全国大学等の共同利用研究所です。当原子炉実験所では、研究炉KURの高度な利用を中心とした研究を行うため、平成7年4月より6研究部門（19研究分野・1客員分野）、2研究施設（2研究分野）の構成で、より活力のある研究所として生まれ変わりました。

今回の募集は、新しい研究体制のもとで、助教授については、研究及び教育に従事するとともに、原子炉施設及び放射線施設の安全管理に積極的に貢献する意欲ある人材、助手については、研究の推進に意欲を持ち、共同研究を円滑に行うことにも努力を惜しまない人材を募るものです。

募 集 要 項

I. 募集人員等

職 名 及 び 人 数	研 究 部 門 等 (研究分野)	職 務 の 内 容	助教授：専門とする学術上の資格に加えて必要とされる資格
			助 手：必要とされる資格等
助教授1名	原子炉安全管理 研究部門 (放射線管理)	放射線防護の研究、特に原子炉施設や放射線施設内での放射能動態、被ばく線量評価、環境中放射能の安全評価に関する研究及び関連した放射能測定機器の開発研究並びに放射線安全管理業務の指導	第1種放射線取扱主任者免状を有すること
助 手1名	放射線生命科学 研究部門 (放射線医学物理)	原子炉や加速器を用いた中性子医療照射場の開発と関連実験設備の維持管理並びに吸収線量測定及び評価技術の開発	博士の学位を有するか近い将来に取得見込みで、30歳以下の方

注：今回募集の助手は任期は10年を越えないものとします。

Ⅱ. 提出書類

1. 本人による直接応募の場合

- (1)履歴書（市販されている通常規格の用紙を使用のこと。）
- (2)研究歴及び実務歴の概要並びに研究業績（業績一覧及び論文別刷10編以内。特に重要と思われる論文については各4部添付のこと。）
- (3)推薦状（自薦も可）
- (4)応募理由を記した書類（研究歴や実務歴について照会可能な方複数名について、氏名・連絡先を記載することが望ましい。）

2. 第三者による推薦の場合

(1)推薦状

この場合、被推薦者本人へは人事選考委員会からその旨連絡し、必要書類を提出していただきます。

Ⅲ. 提出先

郵便番号 590-04 大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所

総務課庶務掛気付人事選考委員会

（「教官応募関係書類」と表記（朱書）し、郵送の場合は書留にすること。）

8. 平成9年度 京都大学原子炉実験所 COE研究員の募集について

京都大学原子炉実験所では、研究用原子炉（5MW）の高度利用を目指して重点的に推進を図る研究領域において、共同研究プロジェクトに従事していただける高度な研究能力を有する若手研究者を広く公募いたします。

1. 職務内容

本実験所の共同研究プロジェクトを推進するため、所員と共同で一定の職務を分担し研究に従事する。

2. 募集人員

若干名（平成8年度の実績は3名）

3. 資格

- 1) 平成9年4月1日現在で年齢が35歳未満。
- 2) 博士の学位を有するか又は応募時点において学位審査会の審査日が確定しており審査結果待ちであること。
- 3) 任用時において、常勤の国家公務員、大学院生及び研修員等の身分を有しないこと。

4. 任期

任用は単年度とし、翌年は改めて選考を行う。同一人の任用通算期間は2年を越えないものとし、やむを得ない場合でも最長3年までとする。

5. 待遇

- 1) 身分 講師（中核的研究機関研究員、非常勤）
- 2) 給与月額 30万円程度（経歴等により若干の増減がある）
- 3) 勤務時間 1週間当たり20時間を越えない範囲とする。

6. 提出書類

- 1) 履歴書
- 2) 研究歴の概要および研究業績一覧
- 3) 指導教官の推薦書

7. 公募締切

平成9年1月17日(金)必着のこと。

8. 選考

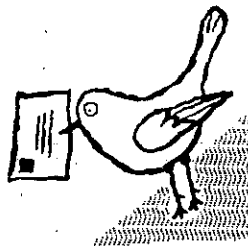
京都大学原子炉実験所研究計画委員会で書類選考を行い、協議員会で決定後、本人に通知。

9. 着任時期

平成9年4月1日以降できるだけ早い時期。

10. 送付先および問い合わせ先

郵便番号590-04 大阪府泉南郡熊取町
京都大学原子炉実験所
総務課庶務掛気付研究計画委員会
(TEL0724-51-2310)



9. 京都大学原子炉実験所運営委員会委員名簿

平成8年10月1日現在

(順不同)

東京大学	原子核研究所	教授	柴田徳思
同	大学院工学系研究科	同	石樽顯吉
東京工業大学	大学院総合理工学研究科	同	井上
金沢大学	理学部	同	坂本
名古屋大学	工学部	同	森千鶴夫
大阪大学	同	同	宮崎慶次
同	理学部	同	鹿取謙二
同	医学部	同	西村恒彦
奈良県立医科大学	同	同	大西武雄
京都大学	化学研究所	同	小井上信二
同	大学院医学研究科	同	※今西淳信
同	大学院工学研究科	同	西原英薫
同	原子炉実験所	同	藤田呂雄
同	同	同	宇津野公博
同	同	同	小内海敏
同	同	同	義家洋裕
同	同	同	川瀬山田啓
同	同	同	森山田奉
同	同	同	神松真弘
同	同	同	齋藤嘉一郎
同	同	同	三島勝男
同		事務局長	中林

※10月1日付で東 邦夫（京都大学エネルギー理工学研究所所長）から交替

10. 招へい外国人学者の受入れについて

氏 名	所 属	研究題目	受入期間	受 入 教 官	備 考
ダン ガレリウ Dan Galeriu (48歳)	ルーマニア国 ブカレスト原子力 物理研究所 監督者	環境中放射 性核種の動 態解析	平成8.11.16 ～8.12.19	原子炉安全管理 研究部門 教授 齊藤 真弘	放射線医学総合研究所 クロスオーバー原子力基盤技 術研究「STA外国人専門家招 聘制度」による招聘者

11. 電話番号の変更について

原子力実験所では、10月28日から電話取扱業務を従来の交換台方式よりダイヤルイン方式に変更しました。これに伴い、実験所構内（京都大学熊取地区）の電話番号が別表のとおり全て変更になりましたのでご注意願います。

なお、誠に恐縮ですが今後はダイヤルイン番号でおかけ下さいますようお願いいたします。

ダイヤルイン番号がおわかりにならない場合は、当面の間、受付番号案内【0724-51-2300】におかけください。従来の代表番号【0724-52-0901】はなくなりました。



1.2. 職員の異動

1. 退職

平成8年8月31日付け

バックエンド工学研究部門

非常勤研究員 やま 山 村 とも 朝 雄
技術補佐員 た 田 の 野 かおり

放射線生命科学研究部門

平成8年10月23日付け

経理課用度掛

事務官 やま 山 なか 中 や 八 え 恵

平成8年10月25日付け

経理課電気掛

技能補佐員 おく 奥 とし 俊 こ 子
技能補佐員 きた 北 ばやし 林 すず 錫 こ 子
技能補佐員 とみ 富 やま 山 かず 和 こ 子
技能補佐員 ふな 船 こし 越 えつ 悦 こ 子

〃

〃

〃

2. 採用

平成8年8月12日付け

総務課庶務掛

事務補佐員 おお 大 かわ 川 く み 久美子

平成8年9月1日付け

核エネルギー基礎研究部門

非常勤研究員 お 小 ごう 河 かず 一 とし 敏

中性子科学研究部門

リサーチ・アシスタント やま 山 ざき 崎 だい 大

核エネルギー基礎研究部門

リサーチ・アシスタント まえ 前 だ 田 ひさ 久 え 江

応用原子核科学研究部門

リサーチ・アシスタント とう 藤 よう 暢 すけ 輔

〃

リサーチ・アシスタント はや 早 かわ 川 恭 史

放射線生命科学研究部門

研究支援推進員 た 田 の 野 かおり

平成8年10月1日付け

応用原子核科学研究部門

助教授 おお 大 久保 よし 嘉 たか 高

平成8年10月28日付け

総務課庶務掛

事務補佐員 とみ 富 やま 山 かず 和 こ 子

3. 昇任

平成8年8月16日付け

放射線生命科学研究部門

助教授 た 田 の 野 けい 恵 ぞう 三

(同部門 助手より)

原子炉医療基礎研究施設

助教授 ^{ます}増 ^{なが}永 ^{しんいちろう}慎一郎
(同施設 助手より)

平成8年9月1日付け

放射線生命科学研究部門

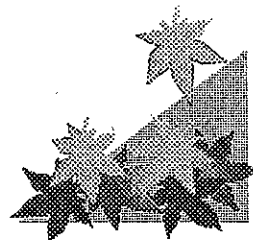
教授 ^{あか}赤 ^{ほし}星 ^{みつ}光 ^{ひこ}彦
(同部門 助教授より)

13. 委員会メモ

(平成8年8月～平成8年10月)

平成8年

- 8月19日 研究計画委員会将来計画小委員会
- 8月23日 臨界集合体実験装置共同利用研究委員会
- 8月27日 研究計画委員会
- 8月30日 原子炉安全委員会
- 9月9日 研究計画委員会将来計画小委員会
- 9月20日 運営委員会・協議員会(回議)
- 9月20日 協議員会
- 9月27日 保健物理委員会
- 9月27日 原子炉安全委員会
- 10月11日 研究計画委員会将来計画小委員会
- 10月18日 研究計画委員会(将来計画小委員会と合同)
- 10月18日 運営委員会
- 10月30日 協議員会
- 10月30日 原子炉安全委員会



熊 取 地 区	
案 内 熊 取(0724)-51-2300	物 理 実 験 室 3 3206
原 子 炉 実 験 所	助 教 授 (増永) 51-2406
	研 究 室 (高垣) 51-2407
	" (木梨) 51-2408
事 務 部	物 理 実 験 室 309 3208
	物 理 実 験 室 5 (高橋) 51-2409
所 長 51-2301	教 授 室 (松山) 51-2410
緊 急 対 策 本 部 3101	" 粒 子 線 物 性 (F) 51-2633
事 務 部 長 51-2302	物 理 実 験 室 325 51-2411
総 務 課 長 51-2303	暗 室 3210
経 理 課 長 51-2304	L B C 室 51-2412
総 務 課 専 門 職 員 51-2305	天 秤 室 3211
庶 務 掛 51-2310	保 健 物 理 実 験 室 (宮原) 51-2413
経 理 掛 51-2320	化 学 実 験 室 4 3212
用 度 掛 51-2321	" 3 3213
(庶務掛・経理掛・用度掛) (F) 51-2600	" 2 3214
事 務 棟 大 会 議 室 3102	" 1 3215
" 小 会 議 室 3103	2 階
" 宿 直 室 3104	研 究 室 (上原進一) 51-2420
ガ レ - ジ 51-2322	" (谷口) 51-2421
守 衛 所 51-2323	教 授 室 (藤田) 51-2422
図 書 掛 51-2311	" (岩田) 51-2423
" (F) 51-2601	" (森山) 51-2424
図 書 棟 会 議 室 3147	" 核プロセス化学 (F) 51-2634
医 務 室 51-2308	教 授 室 (川瀬) 51-2425
共 同 利 用 掛 51-2312	" 核放射線計測 (F) 51-2625
" (研究棟玄関) (F) 51-2620	助 教 授 室 (西牧) 51-2426
研究員宿泊所・管理人室 51-2313	教 授 室 (齊藤真弘) 51-2427
工 営 事 務 室 (工営掛・機械掛・電気掛) 51-2326	技 術 室 (小堀) 3230
" (F) 51-2621	研 究 室 (福井正美) 51-2428
工 作 棟 工 場 51-2327	" (水間満郎) 51-2429
" 電話交換機械室 51-2328	" (岩本) 51-2416
空調コントロール室 51-2315	" (水間長代) 51-2417
ボイラー運転室 51-2316	" (隅野) 51-2418
浄 水 場 51-2317	技 術 室 (佐野) 51-2419
下 水 処 理 場 3176	研 究 室 (古林) 51-2430
中 央 変 電 所 51-2318	" (米田) 51-2431
京 都 分 室 753-2297	技 術 室 (中山) 51-2432
	" (茶谷) 51-2433
	助 教 授 室 (川端) 51-2434
" 753-2298	" (川野) 51-2435
" (F) 753-2299	技 術 室 (杉本) 51-2436
研 究 棟	" (奥村) 3238
	助 教 授 室 (小林慎江) 51-2437
玄 関 3201	研 究 室 (北岡) 3241
中 央 管 理 室 51-2400	" (笹島) 51-2438
1 階	技 術 室 (小椋) 51-2439
技 術 室 (岡本) 51-2402	研 究 室 (高田) 51-2441
" (義本) 51-2403	助 教 授 室 (山名) 51-2442
助 教 授 (清水) 51-2404	研 究 室 (藤川) 3242
" (下浦) 51-2405	

☎ダイヤルインは、〔(0724)-51-内線電話番号〕です☎

研 究 室 (今中)	51-2443	低 温 室	3311
研 究 室 (颯田)	51-2444	生物系特殊室 4	3312
研 究 室 (瀬戸)	51-2445	超 遠 心 器 室	3313
教 授 室 (赤星)	3245	生物系恒温室 2	3314
技 術 室 (松下)	51-2447	生物系特殊室 3	3315
技 術 室 (小谷野)	51-2448	生物系特殊室 2	3316
技 術 室 (福井進)	3248	暗 室	3317
教 授 室 (三島)	51-2449	電 子 顕 微 鏡 室 (前田利夫)	51-2482
研 究 室 (海老澤)	51-2450	マススペクトロメーター室 (林禎彦)	51-2483
研 究 室 (見谷)	51-2451	ベータスペクトロメーター室 (中野)	51-2484
研 究 室 (川口)	3252	天 秤 室	3320
研 究 室 (岡田)	51-2452	赤 外 分 析 室	3321
技 術 室 (石原)	51-2453	X 線 分 析 室	3322
技 術 室 (小野光一)	51-2454	NMR・ESR 室	3323
技 術 室 (荒木)	51-2455	物理系実験室 4B	3325
助 教 授 室 (山田)	51-2456	物理系実験室 4A	3326
研 究 室 (武内)	51-2457	物理系実験室 3	51-2485
研 究 室 (小出)	51-2458	物理系実験室 2	3328
計 算 機 室	51-2459	物理系実験室 1	3329
3 階 室	3270	分 光 分 析 室	3330
研 究 室	51-2460	生物系準備室 1	3331
研 究 室	51-2461	生物系特殊室 1	3332
教 授 室 (工藤)	51-2462	生物系恒温室 1	3333
研 究 室 (客員)	51-2463	地 階 機 械 室	3334
助 教 授 室 (大久保)	51-2464	2階排気モニター室	3335
研 究 室 (櫻井)	3272	ガ ラ ス 室 前	3340
研 究 室	51-2465	生物別棟管理室	3341
教 授 室 (柴田)	51-2466	生物別棟準備室	51-2491
研 究 室 同位体製造管理	(F) 51-2632	生物別棟準備室	51-2491
教 授 室 (宇津呂)	51-2470	同位体利用 (F)	51-2630
研 究 室 冷中性子理工学	(F) 51-2626	飼育室	3343
教 授 室 (前田豊)	51-2471	医療基礎実験室	51-2487
研 究 室 応用原子核科学	(F) 51-2631	動物飼育室	3347
教 授 室 (長谷)	51-2472	危険物倉庫	3349
研 究 室 (義家)	51-2473	ガンマ線照射室	51-2488
研 究 室 (徐)	3282	ガンマ線照射管理室	51-2489
教 授 室 (西原)	51-2474	ガンマ線照射管理室	(F) 51-2624
研 究 室 (小野公二)	51-2475	大型機器収納室 (薬科)	51-2490
研 究 室 原子炉医療基礎	(F) 51-2627		
トレーサー棟		原 子 炉 棟	
玄 関 ロ ビ ー	3300	玄 関 ロ ビ ー	3400
低レベル放射能測定室	3301	ホ ッ ト ラ ボ 管理室	51-2330
準 備 室	3302	ホ ッ ト ラ ボ 管理室	(F) 51-2622
化学系実験室 3	3303	原子炉管理センター	51-2331
化学系実験室 2 (川本)	51-2480	原子炉管理センター	(木村康洋) 3404
化学系実験室 1 (河合建一)	51-2481	原子炉管理センター	(辻本日東實) 51-2332
R I 貯 蔵 室	3306	保 健 物 理 室	51-2333
生物系準備室 2	3310	保 健 物 理 室	(F) 51-2623
		実 験 準 備 室	3407
		実 験 準 備 室	(西川, 田中) 51-2334
		測 定 室 4	3410
		暗 室 1	3411
		測 定 室 2	51-2335
		測 定 室 1	3412

☎ダイヤルインは、〔(0724)-51-内線電話番号〕です☎

A 廊下・測定室前	3413	ライナック測定室	3486
機器分析室 1	3414	" 測定小屋	3487
B 廊下・薬品室前	3415	" 会議室	51-2345
機器分析室 2	3416	" 管理室	(F) 51-2602
電子回路室	51-2336	飛行管室測定室	3484
第3実験室・クリーンルーム	3420	助 教 授 室 (小林捷平)	51-2346
A 廊下・第2実験室前	3421	技 術 室 (山本修二)	51-2347
第 1 実 験 室	3422	" (小塚)	51-2348
ジュニアケープ室	3423	" (高見)	51-2349
ホットケープ室操作側	3424		
" ニューマ横	3425	使用済燃料管理室	3490
" 地下照射室	3426	使用済燃料室 1 階	3491
使用済燃料プール室	3427		
排 気 機 械 室	3428	臨界集合体棟	
排気モニター室	3429	玄 関	3500
B 廊下・炉室入口	3430	C A 制 御 室	51-2350
パーソナルエアロック室	3431	総 合 測 定 室 C	3503
炉室・エレベータ横	51-2337	放 射 能 測 定 室	3504
" 低温照射	3432	計 算 機 室	51-2351
" B - 1	3433	総 合 測 定 室 B	3505
" T A S	3434	工 作 室	3506
" 黒鉛設備	3435	総 合 測 定 室 A	3507
" C N S	3436	化 学 実 験 室	3508
" 4 C N D	3437	2 階・機 械 室	3510
" I S O L	3438	燃 料 室	3512
" N R G	3439	可 動 遮 蔽 室	51-2352
研究炉制御室	51-2340	A 架 台 室	3515
炉 頂	3442	B "	3516
地階・エレベータ横	3444	C "	3517
" 螺旋階段前	3445	加 速 器 室	3518
" 熱 交 換 室	3446	会 議 室	3520
" イオン交換室	51-2338	教 授 室 (代谷)	51-2353
		共 同 利 用 者 室 1	51-2354
低 温 実 験 室	3450	" 2	3521
低温実験管理室 (小高)	51-2339	C A 管 理 事 務 室	51-2355
" (宮田)	3451	"	(F) 51-2603
人工空気測定室	3453	施 設 長 室	3524
中性子導管実験室	3461	教 授 室 (神田)	51-2356
中性子導管測定室 (秋吉)	51-2341	" エネルギー科学	(F) 51-2604
" (田崎)	3462	助 教 授 室 (辻本忠)	51-2357
" 中性子制御 (F)	51-2629	" (中込)	51-2358
スーパーミラー実験室	3465	エレクトロニクス室 (藤根)	51-2359
単 色 中 性 子 室	51-2342	" (池川)	51-2360
冷中性子源機械室	3470	研 究 室 (宇根崎)	51-2361
" 操作室	51-2343	技 術 室 (嵯峨根)	51-2362
冷中性子実験室	3473	研 究 室 (林正俊)	51-2363
スーパーミラー製造装置室	3474	" (市原)	51-2364
液体水素実験管理室 (河合武)	51-2371	技 術 室 (南)	51-2365
パルス中性子室 (小野正義)	51-2372	" (中村)	51-2366
		" (山本弘志)	51-2367
ライナック制御室	51-2370	研 究 室 (小林圭二)	51-2368
" 実験室	3482	" (釜江)	51-2369
" マイクロ波発生室	3483	宿 直 室	3529

☎ダイヤルインは、〔(0724)-51-内線電話番号〕です☎

1 階・電気機械室	3530
熱特性実験室	3535
熱特性測定室 (日引)	51-2373
熱特性データ室 (斎藤泰司)	51-2374
計算機端末室	51-2375
倉庫	3600
倉庫・校正室 1	3601
" " 2	3602
倉庫・測定室 (山崎)	51-2377
環境放射能線測定室	3605
助教授室 (松原)	51-2378

廃棄物処理棟

廃棄物処理管理室	51-2380
技術室 (北川)	51-2381
第 1 試験室	3705
第 2 " "	3706
測定室	3707
機械室	3708
薬品室	3709
薬品室 (小山)	51-2382
処理工場・入口	3710
" 操作盤前	51-2383
" 階段下	3711
データ管理室	3712
技術室 (大野)	51-2384
" (菅)	51-2385
固形廃棄物倉庫	3715

中央観測所 51-2387

原子炉応用センター

図書室	51-2390
教授室 (内海)	51-2391
" 粒子線生物学 (F)	51-2628
助教授室 (田野)	51-2392
実験室	3750
培養室	3753
分析室	51-2393
展示室	3755
大講習室	3756

編集後記

原子炉実験所は、今年度、外部評価を受けることになった。所員のみならず、共同利用研究者の方々にも、この関係で何かとご迷惑をおかけしていることと推察するが、是非ともお力添えを賜りたい。この外部評価に引き続き、早ければ来年にも、いよいよ学術審議会の評価を受けることとなっている。

さて、実験所の将来計画に関しては、来年1月に開催予定の「将来計画短期研究会」で所の「研究計画委員会」のワーキンググループである「将来計画小委員会」を中心に検討されてきた案が提出され、広く関連研究者のご意見をお伺いする予定となっている。以前、原子炉実験所のあり方について検討が行われた際、将来とも核エネルギーと原子核科学の分野で一定の役割を担うという方向が提示された。現在検討されている案は、中性子がキーワードとなっており、安全性の強化と研究の継続性に配慮しつつ、「制御された中性子」を利用した新しい研究が行えるよう配慮されている。

遅きに失した感は拭いされないが、曲がりなりにも実験所の進むべき方向が具体的に議論できる状態になりつつあることは喜ばしい。勿論、たとえば将来計画が策定できても、あくまでもそれは計画であり、実現すると決まったわけではない。将来計画の実現には様々な紆余曲折が予想されるが、原子炉実験所を基盤として発展しようとしている大学の共同利用研究所では、単に関西の拠点を構築するということに止まらず、将来この分野でどのような研究を進めるべきかというグローバルな視点に立って、計画を策定することが求められている。関係研究者には、今後とも厳しく、かつ暖かいご指導とご鞭撻を頂きたい。